

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 地理歴史・公民 第3号

- 高等学校対象 -

平成16年5月発行

### 「現代社会」における課題追究学習の進め方

平成15年4月から実施された「高等学校学習指導要領公民編」(以下学習指導要領)では、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の内容項目の一部において課題を設け、追究する学習(以下課題追究学習)を行うことが明記された。特に、「現代社会」においては内容の大項目が4項目から2項目に縮減されたが、その中の1項目は課題追究学習で進めることが示されている。

このように学習指導要領に課題追究学習が明記されたことは、とかく知識の詰め込みになりがちな学習指導を改め、生徒に課題を主体的に追究させることにより、調べ方や学び方の習得、生徒の特性に配慮した学習などを重視したものである。したがって、その趣旨をよく理解し、指導に当たることが求められる。

そこで、本稿では「現代社会」における課題追究学習のポイントや進め方、評価の工夫などについて述べる。

#### 1 「現代社会」の課題追究学習のポイント

今回改訂された学習指導要領の「現代社会」の指導内容に関する主なポイントは、大項目「(1)現代に生きる私たちの課題」

(以下大項目(1))の内容とその取扱いにおいて、課題追究学習を行うことが以下のように明記されたことである。

現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習指導を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。  
(下線は筆者による)

なお、「総合的な学習の時間」の課題追究との違いは、「総合的な学習の時間」では追究の観点が学習指導要領に明記されていないが、「現代社会」では上述のとおり、社会的事象から生じる問題を倫理、社会、文化、政治、経済的な側面などの観点を窓口として課題追究を行うこととしている。

また、課題は生徒が自由に設定するのではなく、次の五つの事項のうち、地域や学校、生徒の実態に応じて二つ程度を選択して取り上げるよう示されたことである。

- ・ 地球環境問題
- ・ 資源・エネルギー問題
- ・ 科学技術の発達と生命の問題
- ・ 日常生活と宗教や芸術とのかかわり
- ・ 豊かな生活と福祉社会

2 課題追究学習の進め方（例）

が共通の課題で実施する場合）の進め方のポイントを表1で示す。配当時間は、8時間を目安として設定した。

ここでは、大項目(1)の課題追究学習を

2回実施すると仮定し、1回目（生徒全員

表1 課題追究学習の進め方のポイント

配時	学習の主な項目	学習の進め方	留意点
1	1 オリエンテーション (課題追究の2回目の学習では省略)	課題追究学習とは何か、この単元での学習の進め方等を説明する。 <説明のポイント> グループや個における課題の設定の仕方 調べ方 調べたことの考察 研究発表の仕方 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからどのように学習を進めるのか、そのねらいや目的を生徒に示すことにより、共通理解を図り、興味や関心を高める。</li> <li>に関して、学習効果を高めるために学習指導要領の「各科目の内容の取扱い」では、コンピュータ等の情報活用能力の育成を重視しているので、調べ方にインターネット等の活用を必ず位置付ける。</li> </ul>
2	2 課題の設定	課題設定に関連する教科書内容の講義等を行い確認させる。  集団での学び方を習得させるため、取り上げた課題の大きな問題ごとにグループを作らせる。また、主体的に学習する力を身に付けさせるため、その中で分担する生徒各自の個別の問題も設定させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の設定や追究に当たっては、まず必要な基礎的・基本的内容を講義等で身に付けさせることにより、生徒に問題意識を高めさせ、具体的な課題設定ができるように配慮する。</li> <li>課題における大きな問題については、あらかじめ教師が設定し、各グループに選択させてもよい。</li> <li>課題や問題の設定に当たっては、自己とのかかわりに着目させるため、なぜその課題や問題を取り上げたのか理由を考えさせる。</li> <li>課題や問題の設定を生徒任せにするのではなく、適切な設定ができるよう、適宜支援する。</li> </ul>
	3 資料の収集と活用	図書館やパソコン室などを利用して、課題について関連する資料を収集することにより、事実や問題の発見、追究の方法などを調べさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の統計、新聞や文献等の資料、インターネットの活用方法、著作権の取扱いなどについて、授業計画の中に位置付ける。</li> </ul>
3	4 課題追究	収集した資料等を基に分析・考察させ、自分の考えを裏付けさせたり、グループの意見をまとめさせる活動を行う。 ワークシートの活用例(表2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題追究の過程では、多様な角度から見方や考え方ができるようにする。例えば、環境保護や資源活用など生産者や消費者、若者や高齢者などの立場での追究も考えられる。</li> <li>分析や考察では、「問題の本質は何か」「何をなすべきか」「何が私たちにできるのか」などについて考察し、話し合いで深めるようにする。</li> </ul>
	5 発表準備	発表原稿や資料(プリントやプレゼンテーション用スライド)などを作成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表資料等は、決められた時間で発表できる枚数にまとめるよう指導する。</li> </ul>
2	6 課題追究のまとめ(発表会・討議会・レポートなど)	グループごとの発表や質疑応答などを行わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に成就感をもたせたり、表現力を高めさせたり、情報の共有化を図らせたりするために、発表会等の場を設定する。</li> <li>単なる発表会やレポートに終わらないよう、調査研究の目的や方法、分析や考察の経過、結論、参考文献や資料などを必ず取り入れさせる。</li> </ul>
	7 評価	発表等の評価をさせる(相互評価・自己評価)。 相互評価の例(表3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価等を基に発表等について、生徒に再度考えさせる時間を設ける。</li> </ul>

### 3 課題追究学習における評価の工夫

評価では、課題追究学習のねらいである「様々な観点や自己とのかかわりから課題を追究できたか」、「学び方を習得できたか」などを行うことが大切である。

#### (1) ワークシートの工夫

課題追究学習の全過程において、教師がワークシートを作成し、生徒に記入させることにより、指導と評価の一体化を図る工夫等を行う。

表2 課題追究過程のワークシート例

( )班	生徒記入欄	教師支援欄
追究の視点や立場をどこに置くか		
問題点は何か		
どうすれば改善できるか		
私たちにできることは何か		

そのためには、例えば、課題設定の理由、参考にした資料、追究過程で明らか

になったことなどのワークシートを工夫し、作成することが必要である。

#### (2) 相互評価・自己評価の工夫

発表会等では、相互評価や自己評価の工夫を行う。これらの評価を行うことにより、客観的に自分たちの発表を見つめたり(相互評価)、自分たちの発表を振り返ったりすること(自己評価)ができる。このことは、生徒自らが今後の課題追究学習に生かす契機ともなる。

表3 相互評価の例

内容の構成[4・3・2・1] (内容が順序よくまとまっていたか) 説明の分かりやすさ[4・3・2・1] (説明は分かりやすかったか) 発表態度[4・3・2・1] (聞く人の身になって発表したか) 意見の明確さ[4・3・2・1] (意見が分かりやすく述べられていたか) 4:よい,3 ややよい,2 あと少し,1 努力を感想 (発表の良かった点や改善点などの記述)
---

### 4 学習指導の実践例(県立鶴丸高等学校 奥田 純一 教諭の実践を基に作成)

#### (1) 小单元名 クジラは野生保護動物か,水産資源か

(大单元名「現代に生きる私たちの課題」,中单元名「地球環境問題」)

#### (2) 小单元の目標

捕鯨問題を題材にして、地球環境問題と自分たちとのかかわりについて考察させる。具体的には、「クジラ」という動物や捕鯨という行為に対してどのような意見・立場があるのか、それがIWC(国際捕鯨委員会)という国家間交渉においてどのような形で反映しているのかなどについて、主にインターネット上の情報を利用してから課題追究に取り組ませる。

#### (3) 小单元の指導計画(全7時間)

配時	授業の主な内容	指導上の留意点	ねらい(・)と評価( )
1	捕鯨問題の基礎的・基本的知識について説明	捕鯨問題について予備知識がない生徒が多く、いろいろな立場の意見もあることから、教科書を中心に説明する。	課題の概要について基礎的・基本的知識を理解する。【知識理解】(ワークシート)
1	課題の設定(生徒への希望調査,調査項目の設定)	あらかじめ、各グループの班長を決定しておく。 あくまでも、生徒が主体的に学習に参加できる機会を確保する。	・ 教師が準備した六つの調査・研究テーマ(捕鯨に関するこれまでの経緯,IWCの構成国とその主張,捕鯨禁止に従うのが日本にとって最善の方法かなど)を生徒に示し、それぞれが一番興味・関心をもって学習に取り組むことのできるテーマを選択する機会を与える。

配時	授業の主な内容	指導の留意点	ねらい(・)と評価( )
1	3 所属グループの発表，グループごとの作業分担  4 資料収集と活用(インターネットの活用)	作業分担については，グループ内のすべての生徒がなるべく主体的に調査・研究に参加できるように配慮する(班長にその旨を説明)。  最初に「たくさんの捕鯨に関する情報が存在する」ことを実感させる。そのために，生徒の目の前で実際にいろいろなホームページを見せる。	・ 希望調査を考慮しながら，各生徒の所属グループを決定しグループの今後の方針を決めさせる。これにより，生徒自らが積極的に選択した項目について調査・研究するのだというモチベーションを高めさせる。 ・ 指導者側で作成したリンク集を示し(タイトルとURLを印刷したプリントを配布)，インターネット上には実にたくさんの情報が存在するのだということ，また「捕鯨推進」「反捕鯨」の立場で様々な情報発信がなされており，これらについて生徒自身が実際に触れていくこと，更にそれを調査・研究し，得られた情報について他の生徒に伝えていくのだということを実感させる。 様々な観点から捕鯨問題について調べようとする。 【関心 意欲 態度】(観察)
3	5 課題追究及び調査報告書(プレゼンテーション用スライド)の作成  場所 - パソコン室	収集した資料に基づいてグループで多様な立場から分析・考察し，意見を集約させる。 追究の成果をすべて発表するのではなくあくまでも必要な情報だけを相手に提示する「分かりやすい」プレゼンテーション用スライドの在り方を生徒自身に模索させる。また，簡単に案を示さず，生徒自身のアイデアを生かすよう配慮する。 ネット上に示されている「写真」や「グラフ」などの資料について，著作権に配慮しながら効果的に利用するように指導する。	捕鯨問題に関して，立場により様々な考え方や意見が存在することを理解する。 【知識 理解】(ワークシート)  ・ プリント等の紙媒体ではなく，プレゼンテーション用スライドを利用した「画面による」説明をさせることで，発表する際の「ポイントの絞り込み」の大切さや，見る者の興味・関心を引き出す発表の形態について工夫させる。 一つのテーマについて，グループの中でどのように役割分担し，最終的な「完成品」を形作っていくか，考えることができる。 【思考 判断】(ワークシート)
2	6 課題追究のまとめ(発表及び自己評価・相互評価)  場所 - パソコン室	決められた時間内で(各グループ10分)必要な情報を漏らさず伝えられるように指導する。 他人の調査・研究の結果からどれだけ多くのことを学び取れるか，常に意識しながら他人の発表に触れるように指導する。 単なる「発表会」で終わらないよう，相互評価や自己評価のための機会でもあることを意識させるよう配慮する。	調査・研究の結果明らかになった内容についてクラス全員で共有し，捕鯨問題に対する理解を深められる。 【知識 理解】(ワークシート)  発表について，自己評価や相互評価を行うことにより，他人の発表に対する評価方法を学び，また自分たちの「表現」を反省することによって，表現力の向上を図ることができる。 【技能 表現】(自己評価・相互評価カード)

今まで述べてきたように，課題追究学習の進め方では，課題解決の成否のみに終始するのではなく，課題や具体的な問題を設定し，資料を集め，様々な観点から考察・判断し，結論を得るという学習過程そのものが重視される。各学校においては，「現代社会」にお

ける課題追究学習を必ず年間指導計画等に位置付け，生徒が主体的に活動できるように学習指導の進め方等を工夫・改善するなど，「調べ方や学び方」を習得させることに重点を置いた学習の展開を行うことが望まれる。

(教科教育研修課)